

# 会 議 録

第 1 1 回定例会

開会 平成 2 3 年 9 月 2 日

## 教育委員会会議録

1 開 会 平成23年9月2日 午前10時30分

2 閉 会 平成23年9月2日 午後零時7分

3 出席委員

委員長	西池 氏裕
委員	水口 艶子
委員	佐藤 絃子
委員	佐藤 盛仁
委員	筒井 直典
委員(教育長)	福家 清司

4 出席者

副 教 育 長	原内 司
教 育 次 長	真鍋 孝之
教 育 次 長	高橋 博義
学 校 政 策 課 長	西浦 宏明
学 力 向 上 推 進 室 長	藤井 伊佐子
教 育 総 務 課 長	白井 俊
教 育 総 務 課 副 課 長	美保 洋祐

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[議 事]

委員長 議案第42号、協議事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第41号 平成23年度（平成22年度対象）徳島県教育委員会の点検・評価について》

委員長 説明を求める。

教育総務課長 徳島県教育委員会の点検・評価の概要、教育行政点検・評価委員会での意見の概要等を説明する。

〈質 疑〉

委員長：全体のまとめ方はわかりやすくなった。評価委員会からの意見の中で、この点検・評価が教育振興計画の柱となってくるべきだとあったが、まさにそのとおりである。その意味で、点検・評価の結果をどう踏まえていくかと言うことを、もっと力を入れて考えていく必要がある。具体的にいうと例えば15番の「確かな学力の育成」のために「家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合」が下がっている。評価委員会でも指摘されているが重要な問題だと思う。プロジェクトの内容等、対策について根本的に見直すという態度を明確にする必要がある。

また、防災関係の意見を評価委員会でたくさんいただいているが、学校現場の取り組みは評価していいと思う。しかし、県民の方々の期待と不安は大きいので、より頑張って取り組んでいく必要がある。実際に災害が起こったときに効果がでなければならないと思う。

もう一点、スクールガード（学校の安全性確保）の現状はどうなのか。ガードを堅くすることによって、地域との関連が閉ざされる心配があるように思うが、どのように考えればよいか。

教育総務課長：各学校が悩んでいるところである。スクールガード自体は、学校を開くというよりは学校近辺の見回りをしてもらうもので、相矛盾す

るものではないと思うが、スクールガードリーダーの人数が減っているのは事実である。

佐藤（盛）委員：毎年見直しを行って、より見やすいものになっている。今後ともチェックしていくに当たって、数値目標だけでなく、質に対する評価ができるようにという観点でチェックしていただきたい。また、教育振興計画に基づいての点検評価ということなので、来年、教育振興計画自体の大きな見直しの年であり、点検評価と計画を関連づけて相互を高めていけるように考えて欲しい。

教育総務課長：点検評価は平成22年度事業についての評価であるが、特に防災関係等については、過去の評価というよりは、ご意見をこれからの見直しに活かして参りたい。

水口委員：学校の避難場所は具体的に指定されているのか。

教育総務課長：政府の津波浸水被害の想定も出ていないので、完璧なものではないかもしれないが、現状ではほとんどの学校で考えている。

水口委員：すべての学校で具体的な避難場所の指定ができているということも一つの評価になるのでそういう視点でも見ていただきたい。

教育総務課長：次期計画の中で検討したい。

筒井委員：個別の事業評価について、前年度の評価に記載されていた「今後の取組と方向性」が、今年度どのようになったのかが知りたい。また、評価委員会でのご意見の中に個別の事業に対するご意見と、どういう評価をするべきかというご意見があったのではないかと整理して報告してもらえたらわかりやすいと思う。

教育長：方針ごとの記述は今回初めての様式で対応した。「今後の取組と方向性」については十分対応できていない。来年度以降対応できるように考えていきたい。

佐藤（紘）委員：「家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合」が減っている。このような評価結果が学校現場の先生方にもっと届き、浸透していけば、これがきっかけとなって数値が少しでも上がるのではないかと。

教育総務課長：指導主事等が問題意識を持つことによって違ってくると思う。

委員長：点検評価というのは、次のアクションにどうつなげていくかということのためのものである。是非次のステップにつなげていただきたい。また、この評価を十分に活用して次期振興計画の策定につなげていただきたい。

委員長  
各委員  
委員長

議案第41号を原案どおり決定してよいかを諮る。

異議なし。

議案第41号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項1 平成23年3月県内高等学校卒業生の進路状況について》

委員長 報告を求める。

学校政策課長 進路状況等を報告する。

〈質 疑〉

佐藤（盛）委員：進路状況のその他の中で一番多いのは何か。浪人生は入っているのか。

学校政策課長：その他の区分まではこの調査ではわからない。予備校生は専修各種に入っている。

筒井委員：進路状況の数字の変動についてどう考えるか。

学校政策課長：4年生大学への進学が増えている傾向は続いている。一方短大は下降傾向が続いている。進学する場合4年生の大学に進むか、専門学校で資格を取得するかどちらかを選ぶ傾向があるのではないか。就職する割合については20%前後で推移しておりあまり変動がない。専門学校については、昨年は不況の影響で、資格を取得しそれを就職に結びつけようという傾向がみられたが、今年は昨年より少し落ち着いた。

筒井委員：学校でもそういう認識を持っているのか。

学校政策課長：はい。

佐藤（紘）委員：本県の高校生の卒業生数を10年前と比較すると、3分の2くらいに減少しているが、全国的な傾向はどうか。

学校政策課長：出生率の減少に伴い生徒数の減少は全国的な傾向である。

筒井委員：徳島県と規模とか状況が似ている県との比較があれば状況がよくわかると思う。

学校政策課長：他県の状況との比較については調べて研究をしたいと思う。

水口委員：平成23年の就職率は男子が25.8%で女子の14.5%より多いが、平成14年以降同じように推移しているのか。

学校政策課長：過去も同じような傾向だと思われる。本県の就職の傾向として製造業の就職率が高く、工業系の高校の就職の内定状況が他の学科に比べて高い傾向が見られる。工業系の高校は男子生徒が多いことから、そのことが男子と女子の比較に表れてきていると考えられる。

委員長：その他の中の外国の大学等に入学した者の数は多いのか。

学校政策課長：該当はない。

委員長 報告事項 1 を了承する旨を告げる。

《報告事項 2 平成 2 4 年度使用中学校用教科書の採択結果について》

委員長 報告を求める。  
学校政策課長、学力向上推進室長 各採択地区における採択結果等を報告する。

〈質 疑〉  
特になし

委員長 報告事項 2 を了承する旨を告げる。

[非公開]

《議案第 4 2 号 徳島県高等学校等修学支援基金条例の一部を改正する条例について》  
《協議事項 1 平成 2 3 年度 9 月補正予算案について》

(非公開につき、議事の内容については省略)

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後零時 7 分